

国際長寿センター(日本) : ILC-Japan 平成 27 年度事業報告

運営の基本方針と活動の概要

国際長寿センター日本 : ILC-Japan は、少子高齢社会の到来に伴う様々な課題を、Productive Aging の理念に基づき、国際的・学際的な視点から調査・研究すること、またその成果も含めた情報や提言を広く国内外に広報・啓発することなどを目的に、平成 2 年（1990 年）11 月に設立された。

設立以来 ILC グローバル・アライアンス（以下 ILC-GA）の一員として、他の 16 カ国（アメリカ・イギリス・フランス・ドミニカ共和国・インド・南アフリカ・アルゼンチン・オランダ・イスラエル・シンガポール・チェコ・ブラジル・中国・ドイツ・カナダ・オーストラリアー加盟順）との友好・協力関係を基盤にしつつ、様々な活動に取り組んできた。

平成 27 年度は、調査研究においては ILC-GA のネットワークを活用した「地域のインフォーマルセクターによる高齢者の生活支援、認知症高齢者支援に関する国際比較研究事業」において、日本への多くの示唆に富む貴重な知見を得ることができた。加えてその成果を、政策提言や施策の推進に向けた活動に反映させることができた。

また、人生 90 年時代を最後まで自分らしく生きるために、既成概念にとらわれない発想、知っておくべき知識・情報などを分析、整理した「長寿リテラシー」の普及・啓発活動も、企業や団体との協働や連携により着実に発展を遂げ、具体的な成果につなげることができた。

シンポジウム「納得できる旅立ちのために」では、「旅立ち」までの医療や介護問題を高齢者が自身の課題としてとらえること、また家族や医療関係者とのコミュニケーションの重要性を考えることを広く提唱した。

また、ILC 設立以来掲げてきた Productive Aging の理念を「憲章」として明文化し、意欲と能力のある高齢者は社会と関わりながら社会を支える側に立つこと、老いによる病や障害とも折り合いをつけながら、人生最期の時までその人らしく生き、納得して旅立つという理念を、広く世に伝えることに努めた。

平成 27 年度事業報告

(1) ILC-GA との協働による調査・研究、広報・啓発活動

地域のインフォーマルセクターによる高齢者の生活支援、認知症高齢者支援に関する国際比較調査研究事業

地域づくりにおける生活支援は、支援する側とされる側という画一的な関係によるものではなく、能力に応じて支援を提供する側となり、支援を受けつつも自立

意欲を維持していくことが期待されている。また、認知症になっても地域で暮らし続けられるまちづくりに積極的に取り組む必要がある。

ヨーロッパ先進国においては地域における積極的なボランティア活動の展開が、長期ケアの周辺で重要な役割を果たしている。この海外の状況および我が国の先進的な活動事例を明らかにして考察を加え、今後の方向を見出すために以下の調査を行った。海外調査研究では、自治体とボランティアの連携システムのあり方や有償ボランティアの可能性について、今後日本でも参考にできる知見を得ることができた。また国内調査では、前回の調査との比較から、ボランティア活動をしている人の方がしていない人よりも心身両面で健康に恵まれていることなどが、明らかになった。

1) 海外対象の政策・制度データ調査

海外の研究者から、生活支援、認知症高齢者支援に関する質問票（データリクエスト）への回答を得た。

2) 日本、デンマーク、ドイツ高齢者/機関インタビュー調査

日本国内・海外において、地域で高齢者を支援している機関の責任者とそこにボランティア等で参加する高齢者に対してのインタビューを実施。

① 国内：横浜市 平成 27 年 9 月～平成 28 年 1 月

② 海外：デンマーク 平成 27 年 8 月 19 日～21 日

ドイツ 平成 27 年 8 月 24 日～26 日

3) 国内縦断調査の実施

要介護認定されていない「元気な高齢者（65 歳以上）」の、ボランティア活動参加者と非参加者合計 3888 名を対象とした。（有効回収率 86.3%）

○調査項目：健康関連（IADL、抑うつ等）、主観的健康観、基本属性（家族構成、年収等）、ボランティア参加、ライフスタイル（運動、栄養、ICT 利用など）、ライフコース（過去の経験）

4) 国内外の学会等での研究成果の発表

- ・ アジアオセアニア国際老年学会議＜タイ＞ 平成 27 年 10 月 19 日～22 日
- ・ 第 10 回日本応用老年学会大会＜東京＞ 平成 27 年 10 月 25 日
- ・ 第 10 回アジア太平洋アクティブエイジング会議（ACAP）＜福岡＞
平成 28 年 3 月 5 日

5) 調査・研究報告書等の刊行

○調査・研究報告書 A4 版 336 頁 平成 28 年 3 月末刊行

○ブックレット「国際比較 高齢者が主人公となって地域を創っていく時代へ」

・ A4 版 32 頁 平成 28 年 3 月末刊行

(2) 国際的な交流と国内外諸団体との連携による広報・啓発活動

A. ILC-GA 年次総会とシンポジウムの開催

年次総会は、ILC-ブラジルが当番国となり、平成 27 年 10 月 23 日にリオデジャネイロで開催された。参加は 14 か国（チェコ、中国、ドイツが欠席）

ILC 理念の明確化や、加盟国の総数基準、各委員会からの提案などが議論された。次回からは隔年開催となり、平成 29 年 7 月 28 日サンフランシスコで開催予定。また年次総会に先駆けて、平成 27 年 10 月 21 日、22 日には「エイジフレンドリーな世界の構築」に向けた取り組みについて、参加国が発表を行った。日本は健康日本 21、地域包括ケアシステム、認知症への国家的な取り組みを発表し、高い評価を得た。

B. 国際交流と連携による広報・啓発活動

- ・国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）主催「持続可能な高齢社会に関する国際シンポジウム」にて発表＜平成 27 年 11 月東京＞
- ・第 5 回ベルリン人口フォーラムにおいて、ILC-ドイツが主催する「高齢者の労働参加状況および就労階層と認知能力に関する国際比較」に参加。ILC-GA7 か国とともに、それぞれの国のパネル調査データの分析結果を発表
＜平成 28 年 3 月ドイツ＞

(3) 長寿リテラシー普及・啓発事業の展開

- ・シンポジウム「納得できる旅立ちのために」を主催。
平成 27 年 6 月 6 日 有楽町朝日ホール＜東京＞ 参加者：約 730 名
- ・長寿社会ライフスタイル研究会活動の発展。平成 27 年度はテーマを「高齢者が活躍する地域づくり」として、視察や座学を交えた研究会を 4 回開催した。
- ・さわやか福祉財団との事業協力により「ブロック全国共同戦略会議」での講演
平成 27 年 10 月 7 日 両国 KFC ホール＜東京＞
- ・三井住友信託銀行顧客向講座「シルバーカレッジ」及び大学・NP0 等でのレクチャー「納得できる旅立ちのために」計 12 回
- ・民間企業の広報・宣伝媒体として「元気百歳になる方法」を受託制作
- ・地域コミュニティにおける、高齢者の居場所活動の事例紹介とその分析